様式第5号(第5条関係)

平成２９年９月５日

磐田市議会議長　増田 暢之　様

会派名　新磐田
代表者　加藤　文重

会派視察研修等報告書

会派視察研修等の結果について、磐田市議会政務活動費の交付に関する規則第5条の規定により、下記のとおり報告します。

記

期間	平成２９年８月２８日(月)　～　平成２９年８月２９日(火)２日間
視察先 研修会 日程	(1)　８月　２８日　(月)　時間：　午後２時３０分～午後４時３５分 (2)　８月　２９日　(火)　時間：　午後１時３０分～午後３時３０分
参加議員	芥川栄人、加藤文重、松野正比呂、寺田辰蔵
調査事項	❖第１日…鳥取県境港市　(産業部通商観光課) 人口減少社会・少子高齢化の中での地域資源を活かした地域振興や広域的連携、また公共交通機関の確保について (1) 地域資源・素材を活かすための地域・周辺自治体との連携 (2) 現状での具体的取組みと雇用や観光振興等経済的効果 (3) 地域での人材活用と現状の課題、また今後に向けた展望 ❖第２日…山口県山口市　(認定ＮＰＯ法人　支えてねットワーク) 大人の引きこもり支援施設を訪問。受け入れから社会復帰までの取組みについて (1) 施設及び入所者の社会復帰訓練の視察 (2) 現状課題と解消に向けた取組み及び他機関との連携 (3) 施設入所者・社会復帰者及び施設職員との意見交換
調査内容 考察	別紙のとおり

(注)　視察研修の調査内容及び考察は、視察先ごとに詳細に記入する。
調査事項等に係る資料等を添付する。

会派「新磐田」視察報告書

《視察先》

鳥取県境港市　　人口３４，５４７人、　世帯数１５，０９１世帯、　　面積２９．１０㎢

境港市は、鳥取県北西端の弓ヶ浜半島北部に位置し、古くから港を中心に発展してきた。日本海の豊富な水産資源に恵まれ、特定第３種漁港（水産業の振興のために特に重要であるとして政令で定められている漁港。全国１３）として、水産物加工拠点総合整備が進んだ。平成１６年に５万トン岸壁、平成２１年には環日本海定期貨客船が就航、近年ではクルーズ客船の寄港地として利用が増加している。また米子空港も市内にあり、国際定期航路も就航している。

境港市は、漫画家水木しげるの出身地であることから、妖怪のブロンズ像等を設置、地元商店街やＪＲ西日本、米子市、鳥取県との連携を図り、地元商店街の振興・活性化だけではなく、通勤・通学だけだったＪＲ境線も観光客の足として利用され、大いに潤っている。

《調査内容》

人口減少社会・少子高齢化の中での地域資源を活かした地域振興や広域的連携、また公共交通機関の確保について学ぶ。

(1) 地域資源・素材を活かすための地域・周辺自治体との連携

漁港、港湾、空港とともに、大山や松江市・出雲市・安木市の観光圏域を構成、総合的な振興・活性化を図っている。米子市と結ぶＪＲ境線には妖怪駅名板を配置している。なんといっても漫画家水木しげる氏の全国区としてのネームバリューは大きく、またその視点からのキャラクターの活用も民間サイドを利用し、民・地域・官のバランスがうまく融合している。

(2) 現状での具体的取組みと雇用や観光振興等経済的効果

JR境線の観光路線化や各駅に妖怪看板を設置、境港市の商店街通り800mを水木しげるロードと命名し、妖怪ブロンズ像を全国からの寄付により設置、また水木しげる記念館を設けている。近年では空き店舗の解消や商店街のソフト面での充実が図られ、商店街の活性化にも寄与している。

記念館は入館料が１億円／年間あり、維持費の５千万円を引いた残り５千万円が利益となっている。この収益金で道路整備等周辺整備を行うなどしている。平成２２年度には市人口の100倍にあたる観光客が訪れている。地元だけでなく、米子市やＪＲ、一方松江市等周辺との連携により相乗効果も出現している。JR境線は地元の通学の足だったが今は観光客の足としても機能している。

(3) 地域での人材活用と現状の課題、また今後に向けた展望

これまでと同様、スポンサーや寄付者の募集による民間活力を活用軸にした展開をすすめていく。また、クルーズ船や定期空路の新たな開設など港湾や空港の利活用により外国人観光客の受入れとともに、温泉地との連携や市内の宿泊施設の充実等市内や施設周辺の整備を進めていく。

《考察》

とにかく水木しげるというよりもゲゲゲの鬼太郎というキャラクターを最大限に利用し活用している現状にまずは驚きであった。当初は地元商店街からは相当に反対されたとのことであるが、今では地元だけでなく周辺を巻き込んだ観光振興が功を奏している。ハード整備には国や県、周辺自治体、各連絡会等からの補助金等の他に費用分担の調整や協力体制、ソフト面でも情報発信や定期的・随時のイベントを開催するなど、協議・調整のできる場もしっかりしている。磐田市にも境港市以上の素材・資源があると信じており、いかに発掘し活用し利用していくかと思われる。地元の天浜線も地元の通学・生活の足として不可欠な公共交通機関であるが、ちょっとしたアイデアにより地元生活路線から産業振興・観光路線に変貌していく可能性も大いに秘めている。水木しげるロードは妖怪を題材としたユニークさとストーリー性を特徴としているが、天浜線も含め市内各地域の活性化・地域振興のヒントになり得たことは間違いない。とにかく相互の理解と競争（地域や団体間）・融合していく意識は、大事にしていかなければならない。

＜視察先＞

山口県山口市　　人口：196,511人（男性：93,992人　女性：102,519人）世帯：86,108世帯

見学施設：認定特定非営利活動法人　支えてねットワーク（山口市秋穂西）

山口市の人口は、2015年の国勢調査では、鳥取市、甲府市を抜き、最下位を脱出し県庁所在地の人口では全国45位。県庁所在地でありながら、県内における経済的な吸引力は、港湾都市として栄えた下関市、や宇部市などには劣り、関門都市圏と広島都市圏に挟まれた地域。また主たる産業は関門都市圏と広島都市圏に挟まれた谷間の地域で、公共施設や公共事業を除くと観光業と流通程度で日本では数少ない行政都市。

＜調査内容＞

ひきこもりの半数以上が40歳以上と言われ親子ともども高齢化が進んでいる。今後大きな社会問題となる。地域の最終的セーフティネットとしての役割を担う施設「認定特定非営利活動法人　支えてねットワーク」を訪問し、現状と課題、取り組みについて学ぶ。

(1) 施設及び入所者の社会復帰訓練の視察

(2) 社会復帰者及び職員との意見交換

(3) 現状の課題と解消に向けた取組み及び他機関との連携

訪問した支えてねットワーク「和の家」は、山口県山口市秋穂を拠点として、「社会復帰したいと思っていても、どこに相談しても公的制度の支援を受けられず、流れ着いていた」ひきこもりの方々やそのご家族への支援などを中心にした活動実績のある認定NPO法人です。

ひきこもりの方々への本来必要な支援としては、

①家から出るのが困難な状況などからの「初期相談」

②家以外の居場所を作って通えるようにする「外出トレーニング（居場所づくり）」

③企業で働く前の段階でNPO内において働くことができる「就労体験」

④心の準備ができてから実際の会社で働く練習を行う「企業インターン」

という４つのステップが求められます。

山口県においても、①「初期相談」から④「企業インターン」まで一貫した支援をするために行政からの予算が下りている市町はなく、この法人では今まで予算なしの手弁当で対応しています。実際に、本来必要なこれらの支援を一貫して行えている非営利団体も、山口県内では当団体のみ（障害者支援等は除く）だそうです。公的なサービスだけでは手が届かない、ひきこもりにおける制度の狭間のニーズに対し、セーフティネットとしての役割を長年続けています。しかし制度の狭間のケースの支援が多いということは、行政からの支援の資金が出ないケースを中心に支えていくことを意味しており、財政的に厳しい現状があります

＜考察＞

ひきこもりは、表面化しにくく、今後益々増えるであろうと危機感を感じています。「ひきこもり」と聞くと、怠けているようなイメージがあるかもしれません。ひきこもりの状態になっている方々は、人間関係、受験や仕事の失敗、家族の不幸、病気、障害など理由は様々ですが、実は、現状をどうにかしたいと思っている人もとても多くいます。

しかし、本人が社会復帰を望んでいても、病気や障害の有無、年齢などで、公的な支援を受けたくても十分に受けられなかったり、制度が不十分で必要な公的サービスがない状況などもあります。

例えば、近年、ひきこもりの相談も受ける窓口は整ってきたものの、相談するとすぐに「就活」支援になる現状があります。しかし、ひきこもりの方々にとっては、過去にひきこもりとなった原因に向き合うことや、長く社会と関わっていなかったブランクなどもあり、リハビリもない中で急に一般の会社で働くことは不安であり、現行の制度ではハードルが高すぎると感じます。

磐田市においても、まずひきこもりの現状を把握した上で、まずは、①「初期相談」から④「企業インターン」までの制度の狭間のニーズへの対応を含めた一連の支援を継続的かつ安定的にいくことがよいかと思います。